



パートナーシップでつくった「みんなのスポーツフェスタ2023」

校長 岡部 一郎

5月27日（土）、「三小スポーツフェスタ2023」を開催しました。今年は、5月にもかかわらず、真夏のような暑い日もあり、例年以上に熱中症に気を付けながら、練習に取り組んでできました。この暑さで、子どもたちは、練習に集中できないのではないかと思いましたが、実際には、校庭や体育館から、元気いっばいの声が聞こえてきました。「スポーツフェスタ」にかける子どもたちの強い思いを感じることができました。今年度は、参観される方の人数制限をなくすことや、来賓をお招きすることなどによって、子どもたちのやる気も、より一層高まったのではないのでしょうか。保護者・地域の皆様、いろいろな面でのご協力、本当にありがとうございました。

さて、話は変わりますが、私たちはスポーツとどのように関わっているのでしょうか。一つは、テニスや野球、サッカーなどのスポーツを「する（行う、取り組む）」ことです。二つ目は、WBCやサッカーのワールドカップをはじめ、様々なスポーツを「見る（観戦する）」ことです。そして三つ目は、監督やコーチ、大会の運営、選手の補助といった「支える」ということがあげられます。この「する、見る、支える」によってスポーツは成り立っていますが、「三小スポーツフェスタ2023」ではどうでしょうか。低学年、中学年、高学年それぞれで行われている演技、そして徒競走や大玉送り、リレーなど、まさに子どもたちは「する」ことに一生懸命取り組んでいました。しかし、「する」だけではありません。友だちや先輩・後輩が、頑張っている姿を応援席から「見る」ことによって、一人ひとりがやる気を高めていました。また、委員会活動などを通じて、自分たちで得点係や用具係などの役割を担い、演技や競技を「支え」ています。応援団も応援席の子どもたちと一体となり、みんなを「支える」ことができました。この「する、見る、支える」によって子どもたちは多くのことを学んでいます。

ところで、最近では、SDGsという言葉が様々なところで聞くようになりました。SDGsでは、誰一人取り残さない世界を作るために「17の目標」が設定されています。そして、その目標の達成のために、様々な機関や人材が連携し、協働して行動する「パートナーシップ」が必要だと言われています。「パートナーシップ」には、多様な主体である一人ひとりが力を合わせる大切になりますが、「する、見る、支える」によってつくられる行事や活動が「パートナーシップ」を高めると考えています。

「スポーツフェスタ」は、本校における最も大きな行事の一つです。この行事を創り上げていくためには、全ての児童が「パートナーシップ」の力を発揮し、協力しながら活動しています。もちろん私たち教職員も、この気持ちをもって指導にあたっています。また、保護者の皆様には、子どもたちがよいコンディションで当日に臨めるよう準備することや、運営については、ボランティアで様々な仕事を担っていただきました。後片付けも多くの方にご協力いただき、たくさんの「支え」を実感できました。そして学校運営協議会の皆様にも、子どもたちの頑張る姿を「見て」もらい、うれしい言葉をいただいています。本当にありがとうございました。多くの人の「パートナーシップ」に支えられた「みんなの三小スポーツフェスタ2023」になりました。

演技や競技が終わった後の子どもたちの表情は充実感に満ちています。このような表情が多く場面で見られるよう、これからも、「パートナーシップ」を大切にしながら教育活動に取り組んでいきたいと考えています。